



赤ゲット

MOMOKO
モモコ

MOMOTA
モモタ

桃山学院大学キャラクター

まちぐるみミュージアムは地域全体を1つの博物館と見立て、まちのあちこちに点在する文化財を楽しんでいただく取り組みです。これはエコミュージアムという、地域に隠れているさまざまな資源を活用しようという考え方もとづいています。エコミュージアムはエコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）を合わせた造語です。井上敏氏（桃山学院大学）プロデュースにより「開館」した当館は、地域の文化財を「常設展示」しています。

市立織編館と南溟寺にコアミュージアム（インフォメーション）を置き、南海泉大津駅西側の濱八町地区を一つの博物館とし、地域に点在する「展示品」をご紹介します。

いつもはうっかり通り過ぎてしまう、地域に隠れた魅力をリーフレットを片手に探してみてください。あなただけの「展示品」が見つかるかもしれません。



三丁杼変換装置付木製手織機
大正時代に使われた木製の毛布用織機



泉大津まちぐるみミュージアムの コアミュージアム (インフォメーション)

なんめいじ 南溟寺

大阪府泉大津市神明町6番15号
電話0725-32-3970

南海電車「泉大津」駅下車 西口より徒歩8分

重厚な太鼓楼が特徴的な浄土真宗大谷派の寺院です。もとは長泉寺（ちょうせんじ）という寺号で、宇多大津村にあり、文禄4（1595）年に真鍋氏の居城があった現在地に移転してきました。延宝6（1678）年、南溟寺の寺号が付けられ、現在にいたっています。

正保2（1645）年以降は、下条大津村に領地があった伯太藩渡辺家の菩提寺となり庇護を受けました。渡辺家累代の墓25基（泉大津ふるさと文化遺産）と位牌16基（うち13基および位牌を納めた厨子は市指定文化財）が残されています。



泉大津市立 おりあむかん 織編館

開館時間 10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館無料 休館日水曜日・年末年始
大阪府泉大津市旭町22-45 テクスピア大阪1階
電話0725-31-4455/ F A X 0725-31-4457

南海電車「泉大津」駅下車 東口より徒歩3分

泉大津市の地域産業である毛布産業の歴史を学べる博物館です。

本市の毛布の誕生と変遷を示した展示で、技術の移ろいを伝えています。今も動く百年前のジャカード織機が展示の目玉。毎月実施している手織り体験も人気です。（有料・要予約）

併設の直売所では地場産品織物を販売しています。



泉大津市立
織編館
ORIAM Museum おりあむかん



泉大津市教育委員会/桃山学院大学
泉大津市文化財保護委員会/南溟寺

ゆっくりにくりにまちあるきイラストMAP



■ 橋並橋
 泉大津市清水町
 寿永2(1183)年、平家の武将、平忠行と源氏軍の今井兼滋がこの付近で戦いました。その際に忠行が民家の戸板を堤に並べて橋とし、防戦したと伝わります。忠行はこの戦いで討ち死にしました。葬られた場所は「忠行の岡」と呼ばれ、忠岡町の由来となっています。明治14(1881)年に橋並橋と命名されました。

■ 蟹塚
 泉大津市河原町
 元禄時代(1688-1704)に大津川河口付近の湿地帯を新田開発したところ、無数のカニが這い出てきて作物を荒らしたため、退治しました。これらのカニを供養するために建立されたといわれる3基の石塚です。
 本市に伝わる「大津おどり」(市指定文化財)は退治したカニの供養のために始まったといわれています。

■ 浜街道と周辺地域
 泉大津市神明町
 江戸時代に内町筋と呼ばれた通りを中心とした地域で、現在も格子戸のある町屋建築が多数あり、民家や商店が混在する特色のある町並みが残っています。この界隈で綿を使った真田紐や織物が盛んに織られるようになり、明治時代になって、その技術をいかし毛布産業へと発展しました。泉大津の毛布産業はこの地域から始まったのです。

■ 城の山跡
 泉大津市高津町
 泉州の有力地侍(和泉国三十六郷士)の一人で、楠木正成のゆかりの武士齋藤主膳と、茶人藤林宗源で知られる藤林氏の居城跡です。現在は石碑のみが当時の面影を伝えています。

■ ブロンズ「細羊」
 泉大津市田中町
 昭和27(1932)年5月に市制10周年を記念し、商工会議所によって泉大津駅前広場に建てられました。彫刻家の長谷川塊記(はせがわかいき)の作品で、本市のシンボルとして親しまれています。泉大津ふるさと文化遺産に認定されています。

■ 緑照寺
 泉大津市神明町
 浄土真宗本願寺派の寺院で、文禄4(1595)年に、長泉寺(後の南溟寺)とともに現在地に移転しました。境内には高さ4mを越す大きなソテツが群植しており、市指定天然記念物に指定されています。

■ 大津神社
 泉大津市若宮町
 もとは若宮八幡宮と呼ばれており、明治41(1908)年に近隣の村社を合祀し、現在の社になりました。若宮町の町名は本神社にちなんで名づけられています。当時の神社の社は、うっそうとした松林で、カラスが多く住んでいたことから「烏の社」と呼ばれていました。

■ 淡輪三昧
 泉大津市春日町
 戦国時代に、淡輪(泉南郡呷町)を本拠地としていた土豪淡輪氏の一族である飯田家の墓所です。墓所内には、天文年間(1532-1555)の五輪塔があります。

■ 上品寺
 泉大津市春日町
 行基が開山したとの伝承があります。もとは「地藏堂」と呼ばれており、周辺に広がる共同墓地の地藏堂として建立され、のちに寺院となったと考えられています。

■ 忠霊塔
 泉大津市春日町
 第2次世界大戦の戦没者の霊を慰めるため、昭和29(1954)年に建設され、現在860人以上の方が祀られています。

■ ロシア兵墓地
 泉大津市春日町
 日露戦争で捕虜となり日本につれてこられ、浜寺俘虜収容所に収容されたロシア兵のうち、不幸にも傷病死した兵士89人が眠る。

濱八町地区 はまはっちょうちく
 南海泉大津駅の西側地域で、大阪湾に面しています。古代から和泉国海の玄関口として栄え、『土佐日記』(935年)には「小津の浦」・「小津の泊」、『更級日記』(1059年)には「大津といふ浦」などと記され、「おつ」・「おおつ」という名称で知られた地域であったことがわかります。江戸時代には下条大津村、宇多大津村となります。この地域には8つの旧字名があり、地域では総称して「濱八町」と呼んでいます。この8地区は現在でも大津神社の秋祭である「濱八町祭り」で受け継がれています。

*私有地のため、無断での立ち入りはご遠慮ください。